

---

# 大川さん家の居候

夏野

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大川さん家の居候

### 【Nコード】

N2223N

### 【作者名】

夏野

### 【あらすじ】

大川さん家には少し不思議な居候が住んでいる。天然はつらつ系美形居候と名前負けしまくりのローテンション女子大生長女が繰り広げるファンタジックラブコメディー（ラブの成分比は変動します）。

## 序話 バックドロップと居候（前書き）

この作品を年の差スキーに捧げます。  
備考）

本作は食べられません。

## 序話 バックドロップと居候

「ひなた ひなたってばっ！起きよーよ。朝だよ。すがすがしい夏休み初日の朝だよ」

耳触りのいい高めの声が寝室に響く。

私、大川ひなたの朝は居候のモーニングコールから始まる。低血圧の私は朝が弱い。ふらふらと半身を起こし、寝ぼけ眼でベッドサイドの片隅にひしめき合うように乱立する目覚まし時計をみやると、5時半を指している。

ごじ・・・はん・・・だと・・・

「クレアちゃん・・・私言っただね・・・10時より一分でも前に起こしたら生まれてきたことを後悔させてあげるって。必ず後悔させてあげるって。どんなに起き抜けがしんどいとしても絶対に逃さないって」

今の私はかのフーザ様さえ指先一つでダウンさ！いろいろ混じっている気がするが気にしない！

てめえは俺を怒らせた・・・

ふつつとボルテージを高める。

「だって！」

エプロン姿の少年は口をとがらせる。

「問答無よ「うれしかったんだもん！！」」

はい？

「長期休みだから一緒に過ごせるんでしょ？大学にしばらく行かないんでしょ？一緒に遊んだり家事したりできるんでしょ！お盆の旅行だって楽しみだし」

一気にまくしたててくる。

「・・・で？」

「・・・うつかりボクが起きた勢いでひなた起しちゃった・・・ごめんなさい」

生まれてきたことを後悔させる前に涙目でうなだれている居候クレアを見てしまうとうどうにも怒れない。普段迷惑を掛けられたためしが無いというのも情状酌量の余地を大いに作っている。

男の子で13歳といえばやんちゃな年頃だと言うのに聞き分けがいしい、大人びているし、それでいて素直でひねくれていない。なんというか天使のような中身なのだ。

外見にしたって女の私ですら負けを素直に認めざるを得ない端正さだ。褐色の肌は艶やかで肌理が細かく、腰まで伸ばしている長い銀髪はどこぞのシャンプーのCMに出演している女優に勝るとも劣らない。こうなんというかコンプレックスを刺激しまくりつつも母性本能に訴えかけてくる非常に厄介な生き物なのだ。

「・・・ん？私の容姿だと？そんなもん言うものか！誰が好きこのんで美形と並べて描写されたいものか！

「・・・いつも上目遣いが通用すると思わないことだね。明日からちゃんと自制してくれるなら許したげる」

まあ最近かまってあげてなかったしね　主に定期試験のせいだけ  
ど。

「ありがと！　もう一度寝る？」

かいがいしく床に投げ出されたタオルケットを私に掛けようとする。

「　起きる」

さすがに6つ下の子供に二度寝する様を見せつける気は毛頭ない。  
ん？手遅れだと？その意見は却下する。

「ひなただーいすき」

ギュツと私に抱きつくクレア。シャンプーの残り香はいい。けれど  
今は早朝とはいえ、真夏なのだ。

暑い

「は・な・れ・な・さ・い！！」

大学生初めての夏休み初日。私はバックドロップを6つ年下の少年  
に極めた。

両親にはこっぴどく絞られたが私は間違っではない……はずだ。  
朝のまどろみこそ至宝の時間だと思う。それを邪魔したのだから、  
それ相応の報いは受けるべきだろう。

「理不尽だ」

「「どこが……！」」

即座にハモリで突っ込みが入った。借りていた本を返し終えての大学付属の図書館からの帰り道、私は今朝の顛末について至極まっとうな感想を口に出したのだが。

「クレア君も苦勞するよ。こんだけ尽くされているのにありがたみを感じないヤツ（ひなた）にひっかかっちゃってさ」

ため息をついたのは佐野梓<sup>すけのあずかり</sup>。いまどき黒のポニーテールを崩さない涼しげな目元がチャームポイント（？）の小柄な美少女だ。

「そうだよー。愛妻弁当まで作ってもらってアンタいちゃもんつけてなかったっけ？」

ジト目でこちらを睨みつけてくる背が高い方は西園寺真奈美<sup>さいおんじまなみ</sup>。紅茶色に染めたショートボブが今風（？）のきれいなコだ。

「……鮭フレークでハートマークでかかと描かれたら文句も出るだろ」

ぼそつと呟く私に両サイドから姦しく罵詈雑言を浴びせかけてくる。  
曰く

あんなできたコそうそういないよ!!  
美形で気立てが良くて家事も上手い  
おまけにあんたに好意を抱いてる  
しかも同居しているのだろう?  
朝起こしてもらうとかどんだけだよ

(二人とも彼氏持ちじゃないか・・・)

口に出しかけて飲み込む。関係ないと切り捨てられるのがオチだ。

「これ以上騒ぎたてたら、講義ノート来期から有料化してやる」

いい加減うつとうしいダブルスピーカーはピタリとやんだ。よく訓練された女子大生だ。

「そっぴや明日さ。映画って何見るんだっけ？」

「アンタね・・・誘った張本人でしょうが」

「クレアにせがまれたからさ」

「「あの子も一緒かつ!」」

「?言ってなかったっけ？」

「学割だし安いっていう理由で誘われた気がするんですけど?」

真奈美がげんなりした顔でこぼす。

「どーせアンタが渋ったからクレアくん妥協案出してきたってこと



なんじゃないの？」

暑いのに外出したくないとか何とか言ってさ、と見てきたように梓が呟く。

「えすばー佐野」拍手をてきとーに送る。

「「あんたこそ教育し直す必要がありそうね」」

私はさながらグレイタイプ捕獲のように、両腕をがっしりとホールドされて近場のドトールに引きづり込まれ、二時間膝詰めで説教を食らった。

理不尽だ。

## 序話 バックドロップと居候（後書き）

あなたのお暇を慰めるお手伝いになれば幸いです。  
宜しく願います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2223n/>

---

大川さん家の居候

2010年10月10日14時21分発行